

[別紙 2]

審査の結果の要旨

氏 名 萩原 章子

本論文は、わが国の高齢者の身体活動を簡便に測定するために、米国で作成された高齢者の身体活動を測定する質問紙 The Physical Activity Scale for the Elderly(PASE)の日本版を作成し、その適用可能性を検討するとともに、日本版 PASE により測定した高齢者の身体活動に関連する要因を明らかにしたものである。本研究では、地域に在住する健康な高齢者 325 名を対象に、作成した日本版 PASE の妥当性、再現性を検討しその特徴を細かく記述すること、および重回帰モデルの手法を用いた関連要因探索を行い、以下の結果を得ている。

1. 日本版 PASE の作成とその適用可能性

日本版 PASE の作成にあたっては、日米の文化的背景や習慣の違いを考慮し、原著者らの研究グループの了承を得た上で、原版における各要素に該当する活動や、質問紙中の例示などを若干変更した。作成した日本版 PASE の妥当性については、対象全体において、いくつかの妥当性検討項目との有意な関連が認められ（スピアマンの順位相関係数=0.15-0.48）、また再現性についても、日本版 PASE 得点の級内相関係数が 0.65 となり、原著と同等程度の妥当性、再現性を有することが示された。しかし、浜松二段階方式診断法による認知機能の測定の結果、「前痴呆」に該当する対象への適用可能性については、対象数が少なかったため本研究で結論付けることはできず、今後さらに検討することが必要と考えられた。また、日本版 PASE を自記式で用いる場合は、対象の認知機能を十分に確認することや、自記での回答後、調査員が内容を確認することが適当であると考えられた。

2. 日本版 PASE により測定した高齢者の身体活動に関連する要因の探索

日本版 PASE 得点を目的変数とした重回帰分析の結果、男女ともに、現在の仕事の有無や、家族以外による運動への支援、住居形態が日本版 PASE 得点と関連することが示された。以上のほかに、男性では、運動歴や婚姻状態、同居の有無、家族による運動への支援が、女性では、年齢や手術歴、体重あたり的大腿筋断面積などの健康や身体状態に関する要因、身体活動の重要性の認識、居住地といった要因が日本版 PASE 得点と関連することが示された。関連のみられた要因のうち、家族以外による運動への支援や、体重あたり的大腿筋断面積、住居形態や居住地の環境的要因などについては、第三者からの支援により向上することが可能と考えられ、これらから、高齢者の身体活動を高めるための方策が示唆された。

以上、本論文では、わが国において、高齢者に限定した身体活動を測定する質問紙が存在しなかった点に着目し、米国で作成された質問紙の日本版を作成し、その妥当性、再現性について確認した。作成した日本版 PASE は、わが国の高齢者の身体活動を簡便に測定する上での一助となると考えられる。また、本論文では、作成した日本版 PASE を用いて、これまで十分に検討されていなかった、わが国の高齢者の身体活動に関連する要因を明らかにした。この結果は、高齢者の身体活動を高めるための支援や指導を策定する上での基礎資料となると考えられる。

よって、本論文は、わが国の高齢者の身体活動に関する研究の発展、さらには高齢者の身体活動の向上に重要な貢献をなすと考えられ、独創性、臨床的有用性ともに高く、この点で、学位の授与に値するものと考えられる。